

# RECNAの使命

## OUR MISSION



RECNAセンター長  
吉田 文彦

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）が設立されたのは2012年4月です。センター長は私で数えて3代目です。この間、「長崎を最後の被爆地に」との強い想いを背に受け、それに励まれ、力をいただきながら、世界にも例を見ない核兵器廃絶に焦点をあてた研究・教育の拠点として成長してきました。今後は以下のような諸点について、使命感をもって取り組んで参ります。

第一に、変化の激しい国際社会で通用するような研究・教育の拠点であり続けることです。「RECNAからの発信だから」「RECNAの研究者が言っているのだから」と、国内外から一目置かれる存在でありたいと願っております。そのためにも、北東アジア非核化を目指すプロセス（ナガサキ・プロセス）や、核抑止に依存しない安全保障の枠組み構築等に貢献できる調査研究や政策提言に力を込めて参ります。

第二に、被爆地での人材育成に尽力していきます。長崎大学多文化社会学研究科（大学院）においては高い専門性を持つ人材育成を、学部やナガサキ・ユース代表団では幅広い視野と自主性を重視する若者の育成を今後も継続していきます。研究内容の発信でも人材の輩出でも、RECNAの原点はひとつです。文理の壁や学術・実務の壁をこえた問題解決力を重視していきます。

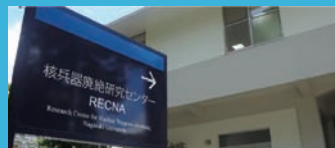
第三は、被爆地にある「市民のためのシンクタンク」としての、大事な使命です。被爆者の皆さんを先頭にしたグローバルな市民社会の活動なしに、核兵器禁止条約は誕生しなかったでしょう。長崎の研究機関として、核廃絶に役立つ情報・資料を整理し、関心のある市民が自由にアクセスできるように努力いたします。被爆地のNGOの声がもっと世界に響くようにするには、どうすればいいか。対話、意見交換の場を大切にしながら知恵を絞っていくことが、私たちRECNAの使命です。

今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

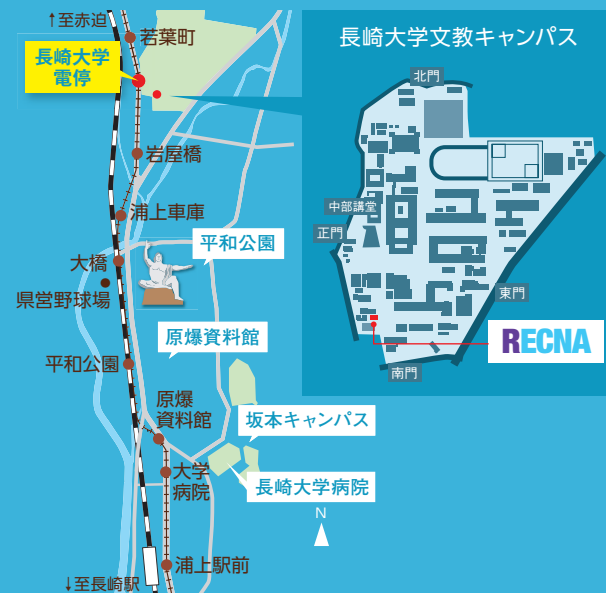
## ACCESS アクセス

### 長崎大学 文教キャンパス内

長崎駅方面から  
路面電車（赤迫行き）  
→「長崎大学」下車



長崎空港から  
県営バス  
（昭和町・浦上経由長崎方面行き）  
→「長大東門前」下車



# 長崎大学核兵器廃絶 研究センター（RECNA）

REsearch Center for  
Nuclear Weapons Abolition,  
Nagasaki University

## RESEARCH STAFF スタッフ

センター長・教授……吉田 文彦  
副センター長・教授……鈴木 達治郎  
副センター長・教授……広瀬 訓  
准教授……中村 桂子

教授（兼務）……全 炳徳  
准教授（兼務）……冨塚 明  
准教授（兼務）……ドミール・コンベル

客員教授……朝長 万左男  
客員教授……スティーン・リーパー  
客員教授……梅林 宏道  
客員教授……三根 眞理子

客員教授……太田 昌克  
客員教授……青来 有一  
客員教授……石田 謙二  
客員准教授……西田 充

外国人客員研究員……グレゴリー・カラーキー  
客員研究員……桐谷 多恵子  
客員研究員……山口 響

顧問……片峰 茂  
顧問……黒澤 満  
学長特別補佐……調 漸

## CONTACT 連絡先

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）  
〒852-8521 長崎市文教町1-14  
TEL 095-819-2164 FAX 095-819-2165  
E-mail : recna\_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp  
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>



2019.4





## RECNAの取り組み

### 1. 調査研究・政策提言

RECNAは、世界にも例を見ない核兵器廃絶に焦点をあてたシンクタンクです。核兵器に依存しない安全保障の実現に向けて、日本政府及び国際社会に具体的な政策提言を示すべく、関連テーマでの研究と発信を進めています。

#### ■北東アジア非核化の実現への貢献

朝鮮半島非核化が外交課題になっていますが、これをどのようにして日本を含む北東アジア非核化につなげていくか。この地域の安全保障環境を改善し、世界的な核軍縮努力にもつなげていく「北東アジア非核兵器地帯」構想の実現をめざすプロセス（「ナガサキ・プロセス」）に貢献すべく、韓国、米国、中国、ロシア、オーストラリア、モンゴル等の研究者が参加する「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル」(PSNA)を2016年に設置しました。今後は韓国や米国の研究機関とも協力して、具体的な政策提言に取り組んで参ります。

#### ■「脱核抑止」に向けた専門的分析

長崎大学は、RECNAが編集し、英国のテイラー&フランシス社が出版する英文の学術誌「J-PAND : Journal for Peace and Nuclear Disarmament」(『平和と核軍縮』)を2017年12月に発刊しました。主な目的は、理論・政策の両面に関する研究を通じて、核軍縮と平和の促進に寄与していくことにあります。核抑止に依存しない非核兵器国(とくに非核兵器地帯の国々)の考えを、核廃絶に向けた専門的な議論に反映させることも大事な目的です。RECNA叢書やRECNAポリシーペーパーの刊行も継続し、非核世界の実現に向けた研究、発信の国際的拠点の役割を担っていきます。

### 2. 教育・人材育成

被爆者の高齢化が進むなかで、次世代を担う若者の育成が一段と重要性を増しています。核兵器の非人道性、核抑止依存のリスクを自らの言葉で考え、伝えていく新たな担い手が必要不可欠です。RECNAではさまざまな機会を通じて、大学生・院生を中心とした若い世代の人材育成に取り組んでいます。

#### ■軍縮・不拡散教育の推進

長崎大学の全学共通科目群の中で、「核兵器のない世界を目指して」「私たちと核兵器廃絶」「核兵器廃絶へのアプローチ」の講義を行っています。2018年度から多文化社会学研究科(修士)に「核軍縮・不拡散」専門コースを開設し、高い専門性と被爆地の視点や感性を併せ持つ人材の輩出に取り組んでいます。

#### ■「ナガサキ・ユース代表团」の活動支援

2012年10月に核兵器廃絶長崎連絡協議会(会長:調瀬長崎大学学長特別補佐)が誕生しました。長崎県、長崎市、長崎大学の三者による核兵器廃絶のための協議会です。その事業のひとつが、有為の若者を選任して核問題の国際会議に派遣する「ナガサキ・ユース代表团」のプロジェクトです。参加する若者たちは、事前学習、現地での活動、帰国後の追加学習・報告書作成等で貴重な学びの場を体験します。RECNAは協議会と連携し、この事業の企画運営に全面的に関わっています。

### 3. 市民社会への情報発信

「長崎を最後の被爆地に」との想いに応える「市民のためのシンクタンク」としての役割も多岐にわたります。中でも大事なものは、核兵器廃絶に役立つ国内外の情報・資料を整理、分析し、関心を持つ市民が自由にアクセスして、知識を広め問題の理解を深めていただけるような情報発信です。

#### ■「市民データベース」の構築

国連文書、各国政府の政策など、核軍縮・不拡散問題に関する多様な文献、資料を日英両語で提供するデータベースを作成しています。世界の核弾頭や核分裂物質のデータについては毎年、大型のポスター、リーフレットを作成し、RECNAのホームページで公開するだけでなく、国内外の研究・教育機関に配布しています。

#### ■被爆地のためのシンクタンク

RECNAは、核兵器廃絶長崎連絡協議会と連携して、定期的な市民公開講座を開催しているほか、主に外国から専門家を招いた特別市民セミナーも随時開くなど、さまざまな市民向けの事業を展開しています。